



わたり保育園を訪問したレディースクラブメンバー（左から、宇山さん、橋上さん、柏木さん（代表）、三代さん）

子どもの命を守るため、仲間と27年間活動

～境港交通安全レディースクラブ～

交通安全をわかりやすく教えたい

境港交通安全レディースクラブ（以下「レディースクラブ」という。）は平成8年、当時同じ保育園に通っていた園児の保護者12名で結成。現在、春と秋の2シーズン、境港警察署の職員と共に市内の小学校や園を巡回し、交通安全をテーマにした演劇や歌を通した啓発活動を行っています。

レディースクラブ発足のきっかけは、「ママさん自転車大会」の優勝を目指した日々まで遡ります。

当時、大会参加チームの一員だった柏木香寿子さんは、2年がかりで交通法規等の勉強をし、県大会で準優勝しました。それまでは子どもたちと一緒に遊びながら交通ルールを覚えてもらう指導でしたが、これを機に、交通ルールをよりわかりやすく教える内容に変えていきました。それを知った警察の方から、ボランティアグループを作って、市内全体の子どもたちに指導してほしいという要請があったそう。こうして、平成8年の3月に、メン

バーの子どもたちの卒園に合わせて、レディースクラブが発足しました。

その後、子どもの成長に合わせて本格的に職場復帰しながら続けている人や、途中で新たに入ったメンバーを含めて5名で27年間、活動を続けています。

母親ならではの願いで活動

レディースクラブは、女性ならではの目線で、笑いを取りながら、子どもたちが楽しく学べる交通安全教育を目指しています。

安全教育の内容は、境港市だからこそできる、『ゲゲゲの鬼太郎』のキャラクターたちになりきり、子どもたちの遊ぶ場面から連想できる危険を、劇で表現しています。衣装は裁縫が得意なメンバーに製作を頼み、頭に付けるお面は、絵が上手なメンバーの家族にお願いして描いてもらったそう。口調も原作を踏まえつつ、子どもたちが怖くならない絶妙

なラインを、お母さんたちは知っています。

「ただ『道に飛び出さないで』って言うよりも、『なぜ確認しなきゃいけないのか』の理由が分かると、身につくと思うんです」と、自身が学んだ経験から語る柏木さん。「自分の命も大切だけど、周りの人の命も大切。それをちゃんとわかる人に育ててほしい」と、交通安全だけにとどまらない願いも母親ならではのもの。



パネルや衣装、お面のイラストも、全て手作り

若い警察職員とも一緒に活動

活動当初は、レディースクラブメンバーのみで公演に行っていたそうですが、ここ10年は若い警察官も入って、一緒に活動を続けています。「道路交通法は～なんて言っても、子どもたちには伝わらないので。どういことを話したいかを、あらかじめ組み立ててきてもらって、それを聞きながらこんなふうに話した方がいいよとか、こんなふうに言ったら、笑いながら学んでもらえるんじゃないだろうかとか話し合っています」と、お互いに学びながら工夫しています。

聾学校での印象的な体験

活動を継続する中で印象的だったのは、学校の先生から「転勤先の子どもたちにも見せたい」と依頼を受け、聾学校を訪問した時のこと。「車の急ブレーキの『キキーッ』という音の伝え方が分からず、先生方に習ったつたない手話を一生懸命使いました。子どもたち1人ひとりの食いつき、学びたいという意欲がすごかった」と聾学校での体験を振り返ります。「さまざまな障がいのある子にどう伝えるか、難しいことだなあと感じます」とつけ加えられました。

活動は職場や家族の理解があってこそ

レディースクラブの交通安全教育は、春は小学校、秋は保育園と幼稚園を巡回します。メンバーは現在も仕事や家庭と、活動を両立しています。そのため、職場に調整や協力をお願いしてシフトを組んでもらっています。「毎週同じように人が抜けると、迷惑をかけることもいっぱいあると思うんですけど、ずっと協力してもらって」と話し、「この時期が来たら、家族に、レディースが始まるけんって、言ったら、ああそうかって言ってもらえる」と、活動が30年近く続く裏には、職場や家族の理解や支えがあってこそだと、メンバーは感謝の言葉を口にします。

子どもとの出会いがエネルギーに

「みなさん表情が生き生きしていますね」と伝えると「年に数回、メンバーで美味しいご飯を食べて幸せを共有するのも原動力」と半分冗談を言われたあとで、「子どもと出会って、関わって、エネルギーもらうもんね」と話したのは、橋上さん。「スーパーで出会った子が、あの人見たことがある、と家族に話しているのが聞こえ、覚えていてくれたりする。それだけでも嬉しくなる」と言います。

ほかにも、自転車でバラバラに走っていた子たちが、道ですれ違ふときにも、「レディースの人だ」とわかったとたんに、きれいに一列に並びだすこともあると言います。そのおかげか、境港市では、子どもの重傷者や死者の出る交通事故がないそうで、「事故の抑止力になっているのかな」と笑いながらも、活動の継続が地域に貢献していると自負を持っておられます。



劇の最後は「ゲゲゲの鬼太郎」で一度は聞いたことのある「カラコロンの歌」の替え歌を、子どもたちと一緒に歌います。

境港交通安全レディースクラブの皆さんから

ひとこと



代表 **柏木香寿子** さん



この活動はライフワークになっていきます。仲間と好きなことを言って、笑って過ごせることが一番ありがたいです。健康にもつながってるのかなとも思います。

宇山なぎさ さん



27年続けてこられたのは、仲間がいてできたこと。感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、今と同じじゃなくてもいいので、何か続いていく形ができてきたらと思っています。

三代 **幹子** さん



このメンバーは、一緒にいるのも空気のよさに当たり前の存在。活動も本当に特別なことじゃなく、生活の一部として楽しくやってきたら、20何年も経ったという感じ。子どもと関わることは私にとって、やりがい。です。

橋上直美 さん



家族の協力もあって今まで活動できたことは、自分にとって誇れることかなと思います。みなさんから「交通安全、がんばってるね」って声をかけられると嬉しいですね。身体が続く限り、頑張りたいと思います。

武良春枝 さん



砂かけ婆の役をしている本物のばばです。可愛い孫世代に正しい交通安全の知識を身につけて欲しいです。横断歩道で止まってくれた運転手さんにあいさつする姿を見るとホッとします。ルールを守ってねとつぶやく私です。



境港市役所 自治防災課

木村 哲 さん

からのメッセージ

みなさんパワフルです。うちの子も劇を見ましたが、その影響力のすごいこと！子どもたちは時間が経つと忘れてしまいがちなので、これからも一年ずつ、積み重ねていただけたらいいなあ。私たちも協力しますので、頑張ってくださいたいです。

自転車大会とは



自転車事故防止活動の一環として、各都道府県の交通安全協会と全日本交通安全協会が主催する大会。現在は「交通安全子供自転車大会」と「高齢者交通安全自転車大会」のみ。内容は、交通法規や自転車の安全な乗り方などを問う学科テストと、交差点の正しい通り方など交通法規に従った乗り方をチェックする安全走行テスト、S字走行やジグザグ走行など乗り方の熟練度をチェックする技能走行テストの実技テストが行われる。

30周年までの課題は、次の世代に引き継ぐこと！レクチャー・応援は惜しみません。子育てから離れてしまったけれど、子どもたちと関わりたい方、交通安全について学び、広めたい方、募集中です。

メンバー募集中!
境港交通安全
レディースクラブ

問合せ先

境港市役所 自治防災課 自治防災係

〒684-8501
鳥取県境港市上道町3000

TEL 0859-47-1023